

令和7年度 第1回 市民参加推進・評価委員会 会議録

1 日時

令和7年8月7日(木) 10時00分～12時00分

2 場所

宮代町役場2階204会議室

3 出席者

委員：金子委員、神田委員、菊地委員、斎藤委員、福井委員

事務局(地域支援課)：小林課長、加藤主幹、平向主査

4 開会

事務局(加藤主幹)より開会及び事務連絡を行った。

(1) 会議の成立について

会議の成立を確認した。

(2) 会議資料について

次第、資料、委員名簿が揃っていることを確認した。

(3) 会議の公開について

会議は公開とし、傍聴は可能とすることを確認した。

(4) 会議録の作成方法について

要点記録とし、発言には委員名及び事務局職員名を記載することを確認した。

5 任命書の交付

小林課長より委員5名に任命書を交付した。

6 あいさつ

小林課長挨拶

7 自己紹介

委員及び事務局職員の自己紹介を行った。

8 委員の互選について

事務局(加藤主幹)から「次第4 委員長の互選について」の説明を行った。

互選により福井委員長が委員長に選ばれた。

職務代理者には福井委員長から斎藤委員が指名された。

9 令和6年度市民参加 基礎的な評価及び検証結果についての協議

平向主査から令和6年度市民参加基礎的な評価及び検証結果の報告を行った。

福井委員長：委員の方から何か質問があるか。

斎藤委員：審議案件がなかった4事業、1つめ情報公開、2つめ防災の検討委員会、3つめ自転車対策、4つめ都市計画審議会でよいか。案件がなければ開催しない審議会なのか。

加藤主幹：その通りです。この市民参加推進評価委員会は毎年、実績と計画を出すので年2回は必ず開催されます。情報公開も案件がなかったのと、防災計画検討委員会については地域防災計画の改定がない年は開催されません。自転車等対策委員会は町営の駐輪所の関係で審議する案件がなかったことによるものです。都市計画審議会についても案件がない年は開催がないものです。

斎藤委員：番号で言うと1番と8番と12番と28番になりますね。

金子委員：28番の募集をしながら審議会がないというものについては、募集をしてきた方からしてはどんなものかと思わせる状況かと思われるが。

加藤主幹：案件がないということは確定しておらず、結果開催していないものです。審議案件があってから委員を募集していくは開催が間に合わないというものです。

神田委員：都市計画審議会の委員でもあるが、昨年は会議がなかったが、その前の年は会議があった。今年も開催される予定である。

加藤主幹：都市計画審議会の目的は都市計画を定めるにあたり、調査審議いただき適切な都市計画であるか確認、答申を行うこととなっています。公募市民3人、町議会議員が4人、国、県等の関係機関から3人、学識経験者が4人の14人で構成されています。

金子委員：会議開催回数の斜線になっているものについては、どう評価するのか。

平向主査：ボランティアとして募集しているものです。会議があるものでなくイベントに出席してもらっているものです。

加藤主幹：ここで指している会議とは条例などに基づいている審議会の会議の開催回数です。ボランティアや実行委員会などは斜線になっています。

金子委員：だとするとボランティア活動自体が行われたか不明となるので、評価のしようがないのでは。

平向主査：資料4に応募者人数だけではあるが掲載している。

金子委員：応募がありましたが、活動したかは分からない。募集している以上は活動

していないというのはないと思うが。市民参加の評価としてはしづらい。

福井委員長：ボランティアもワークショップも同じになる。

金子委員：条例によらないものはそうなる。ワークショップは数が載っているからいいが、ボランティアについて応募はあるが実績が出ていない。

加藤主幹：市民参加条例では市民参加手法が定義されていて、審議会等、パブリックコメント、フォーラム、意識調査、住民投票その他の手法となっています。資料では条例によらない市民活動であるボランティア、実行委員会形式も取りまとめさせていただいていますが詳細までは載せていません。

金子委員：活動をしたかどうかくらいは出したほうがいいのでは。

加藤主幹：ボランティアで隨時行っているものについて、数値化しにくいものもあります。

金子委員：回数でなく有無はないと、ボランティアで活動があったのかが分からない。

加藤主幹：照会の項目に追加させていただきます。

福井委員長：委員会として評価できるようにまとめてもらえない評価できない。

菊地委員：全体的にみて各課が審議会を開催しているか、開催しているということは市民のために仕事をしているのかどうかという点で、審議会を開いたり、募集がなかつたり、活発にやっているかどうかというのが、この委員会の仕事である。この評価だとわかりにくい。例えば防災は問題になっていて、下水の陥没などがあって活発にやっているのか分かりづらい。

福井委員長：中身の内容を具体的にではなく、その活動がどの程度というのが見えないと評価しづらいということか。

金子委員：回数が出ればいいという話だけではないですね。

菊地委員：都市計画審議会は委員であったことがあるが、横町開発等の案件があればやるが、案件がなければやらないということか、指定管理者の図書館協議会は定期的に開催しているから活発にやってもらっている。情報公開は届出がなければやらないということなのか。

福井委員長：行政側で案件がなければやらないということでいいのかということですか。

菊地委員：行政にいたから分かるが、予算をとて課として活動していて審議会に報告をすることが大事なことだと思うが、その辺の各課の動きとしては大丈夫なのか心配である。

金子委員：平常で動いているものと、非平常で動いているもの、条例外だけどボランティアで動いているもの、分類ごとにまとめておいた方がいいのでは。ＫＰＩがどうなっているのか、民間だと本来は目標値を定めて、それをどう推進していくという話になるが、充足率がどうかとか、ＰＤＣＡのチェックは今回のだから、プランどうなっているのか、そのための基準というのは何で測るか、募集人数や、会議回数、本来3回やるはずだった審議会を1回しかや

らなかったというのはよろしくない話ですよねとなる。そういう評価をどこまでするのか、市民の委員でそうそういけるかという難しい話ではある。評価をするにあたり軸を何にするのか。

加藤主幹：計画自体は6年度の計画があり、1ページの資料に計画に対する実績があってパーセンテージが出ていて、個々の会議については資料1で集計しています。

金子委員：個々の会議でやっていたら時間がいくらあっても足りないので、そこを求めていない。充足率何パーセントとかKPIを90パーセントとするのはどうでしょうか。

加藤主幹：目標値は定めていません。委員の募集については、広報、ホームページなどで行っていますが、募集に対して応募がないことがこちら側の瑕疵とは思っていない。実際に応募がない委員会については声掛けをさせていただいたりしている。

金子委員：応募が来るかどうかは悩ましいが、募集の方法が適切であったかどうかはある。総括に書いてあるが、待ちでは来るはずはない。SNSを活用したのかとか、公式LINEやインスタを活用したのか、管理している部署ではないので制約があると思うので事情はわかるが。町にとってフル型になっている。しっかりpusshしたのか。広報だけだと、自治会入っている方しか配布されない、今の自治会加入率を考えたら、全員に行き渡るかは考えづらい。数字だけ見れば、41募集に対して33人しか応募がない、それでは駄目ですよねと話が終わってしまう。改善もこちらから出してよいのか。KPIはどうなっているのか。

菊地委員：昨年も資料1と同じ表を出しましたか。

加藤主幹：出しています。昨年の審議会は40で今年は39です。

菊地委員：私が文化財保護委員会や図書館協議会もやったが、電話がかかってきて少ないからどうですかとかあったが、最近は電話がかかってこない。これを見ると文化財保護委員会も図書館協議会も足りない。どのように募集しているのか。

加藤主幹：市民参加条例の趣旨は市民参加の機会を設けるものです。条例が制定される前は公募市民を入れないで町側で恣意的に委員を決めていた。平成15年度にこの条例が制定され、市民参加の手法を定めてからは審議会には必ず市民の公募委員枠があります。

金子委員：市民公募枠を作ったのはわかりました。広く応募できる状況になっているのか、例えば平日の昼間に会議を開催して、40代のサラリーマンが参加できるのかということになる。定年を迎えた70代の委員で構成されているのが機会を確保しているとは言いづらい。委員の年齢層がないと評価しづらい。

広報だけで募集をかけるのは厳しいと個人的には思う。

加藤主幹 : 以前にも広報とホームページでは募集が足りないという話があったので、公式LINEを検討したが、本当に重要な町からの情報が埋もれてしまう恐れがあるため着手していない。

菊地委員 : 大事なものとは。

加藤主幹 : LINEで町から多くの情報が流れていくと目に触れないことがあります。重要な情報とは、町内に停電があった場合など広く周知する必要があることなどです。

金子委員 : 何をするにしてもメリット、デメリットはある。

加藤主幹 : 公募情報が知りたい場合は公募委員登録制度というのがあり、登録していただければ毎月1日に市民参加の公募やパブリックコメントの情報などをメールマガジンで送信しています。この制度に登録いただければ、募集の機会をキャッチできますが、情報を得ようとしていただかないと難しい面もあります。

福井委員長 : 市民がいないと成立しない委員会は何があるか。

加藤主幹 : 市民だけで組織しているのは、この市民参加推進評価委員会だけです。それ以外の審議会は応募がなくとも成立してしまいます。

金子委員 : 成立しないと事が進まず何もできなくなってしまう。それはそれで困る話。

小林課長 : 空家対策協議会だと、公募だけでなく弁護士や不動産関係者など専門性のある委員がいないと評価できない。逆に市民だけの委員会はここだけです。

金子委員 : 市民参加できているかどうかなら市民だけで評価できる。

菊地委員 : 空家の協議会は専門家だけでやっているのか。

小林課長 : 任期があり、4年度に募集して5、6年度に開催している。今回は6年度に募集をかけたものなので今回の表には含まれていません。翌年度の委員の募集を年度末に募集をかけるので紛らわしくなっています。

菊地委員 : 市民参加評価委員会も入っているのか。

小林課長 : 入っています。募集をしていないものは0になっている。

菊地委員 : 文化財保護委員会も図書館協議会もやったが、20年以上やっている専門家が委員にいたが、世の中の動きが変わり文化財の取扱いも変わってきている。そういう流れがあるので市民の方が入ってもらったほうがいい。意見があって入りたいという人は大事である。旧態依然な体質の委員会となってしまう。

福井委員長 : 翌年度の募集ということか。

小林課長 : 募集の多くは4月からの任期となっていますので、募集した年度に活動していないケースが多いです。

加藤主幹 : 市民参加推進評価委員会は3月任期の方と5月任期の方がいましたので、

6年度の3月に募集をかけまして、2人が応募され、7年度の5月に再び募集をかけたところ4人の応募がありました。そこで任期を同じくするために本日任命書を交付したところです。

小林課長：翌年度の委員の募集と年度内にスタートする委員の募集が表では混在しています。この表だと分かりにくくなってしまっている。

菊地委員：この市民参加推進評価委員会の名称が抽象的で内容が分かりづらいのではないか。

加藤主幹：交通安全対策協議会とか防犯のまちづくり推進協議会など、仕事内容が委員会名になっていると連想しやすいですね。

菊地委員：抽象的な名前はわかりづらい。委員会名が難しいから募集が少ないのでないか。

小林課長：空家の委員会や交通安全の委員会はテーマが分かりやすいですね。

金子委員：公募委員がいなくても進められる委員会はあるか。あるとするとそれが評価軸のひとつになると思う。

福井委員長：6年度の公募人数だけより、あと何人空きがあるとかがあったほうがいい。

金子委員：市民参加を評価するうえで、公募委員の有無、枠がいくつ空いているなどの記載がないとＫＰＩを出しづらい。

神田委員：審議会はいくつまで兼務していいのか。

加藤主幹：3つまでになっていますが、定員以上の応募が来た場合のみ、男女比、兼任数などにより遠慮していただく場合があります。

菊地委員：文化財保護委員会と図書館協議会は不足している。足りないままスタートしている委員会は翌月に再募集とかしないのか。

加藤主幹：再募集はしていません。

金子委員：充足しない場合は再募集しなくていいのかというのもある。

菊地委員：年に1回広報に載っただけで募集がくるか。

加藤主幹：再募集すると委員任期もずれてしましますし、第3回の会議から参加になった場合にフォローをしなくてはいけなくなります。

この市民参加推進評価委員会は応募者全員に説明会の出席を義務付けています。一度条例の説明をさせていただいて、それでも委員になっていただける方しか委員にはなれません。

金子委員：充足しているのか、公募委員がいない委員会あるかもしれないというのは評価しづらい。

福井委員長：今できることとして、募集人数というのは市民参加41人に対して33人で充足率が80.4パーセントです。これを評価しないといけない。先ほどＫＰＩと言われていましたが、これを何パーセントにするかなどをこの委員会で設けるべきではないかという話ですね。

- 菊地委員：それは会社とか経営になると目標とか必要になるかもしれないが。
昨年度の差はどうなっているのか。
- 加藤主幹：昨年度、令和5年度については、応募率71パーセントでした。
- 菊地委員：では昨年より応募率が上がっているのではないか。
- 加藤主幹：単純に上がっているという判断はできません。審議会はだいたい2年の任期です。その年に手をあげやすい委員会があったかなど年度によって違ってきます。令和4年度の公募数38人に対し応募は41人で107パーセントです。
- 金子委員：須賀小の審議会があった年度である。
- 小林課長：経年変化がありKPI8割以上が妥当かという判断ができません。
- 加藤主幹：年度ごとに募集内容が違うので目標設定はしづらいと思います。
- 小林課長：わたしが過去に経験した中で、手が上がりにくい委員会が混ざっているときに応募8割以上にするという目標に設定したと仮定し、行政がその目標を達成しようとしたときに何が起きるかというと、声をかけやすい人を無理やり引っ張ってくるというようなことをしなくてはいけなくなります。それでメンバーが固定化してしまって悪循環に陥ってしまいます。それなので過去にKPIを設けるとなったときに弊害があった記憶があります。
- 金子委員：委員会の特性を分析しなくてはいけないのかという話になってしまいます。
- 小林課長：その年その年で個々の委員会で何があったのかを深堀りしていかなくてはならなくなってしまいます。なかなかそれを明らかにしにくいです。
- 金子委員：充足率でなく、応募有無に対して評価するなら100パーセントである。
- 小林課長：応募が来たか来ていないかで判断するとそうなります。
- 菊地委員：充足しなかったときに再募集というのは制度として可能なのか。
- 加藤主幹：可能ではあるが、一度募集をかけて来なかつたものについて、再度募集したからといって来ないといます。
- 金子委員：同じ方法でやつたらそうなると思う。
- 福井委員長：広報とホームページか。
- 加藤主幹：あとメールマガジンです。
- 福井委員長：その3つということか。ほかに方法がないか。
- 金子委員：公式LINEとインスタくらいか。ただ先ほどのデメリットもある。
- 福井委員長：広く周知する方法として活用は検討すべきである。
- 金子委員：防災情報などは重要であるが、頻繁に情報が入ってくるとどうか。
- 加藤主幹：頻繁に情報が流れてくると本当に大事な情報が漏れてしまう恐れがありますが、町のLINE、インスタを活用すれば登録している方たちの目には触れることになります。
- 金子委員：Xもやっていますよね。

- 平向主査：やっています。
- 加藤主幹：Xは一回出したものについて更新や修正ができないです。
- 福井委員長：給食のメニューを出しているのしか見ていない。
- 広報紙の配布はどのくらいか。
- 加藤主幹：自治会の加入率が60パーセントくらいです。
- 福井委員長：それ以外の人には届いていないか。
- 加藤主幹：駅などに配架しているので手には入ります。
- 金子委員：自治会加入率の年代別で30代40代の加入は絶望的に低くなっている。
- 福井委員長：市民参加の情報だけでなく普通の情報が届いていないということになる。
- 平向主査：紙ベースで届いていないということです。LINE、XなどのSNSでは情報が流れています。
- 福井委員長：登録して、見にいかなくてはいけない。
- 平向主査：LINEだけはプッシュ型で情報が送られてきます。1万3千人が登録していますが、不必要的情報が多く流れてくることによりブロックする方が増えています。
- 小林課長：自分に関係のない情報が入ることが煩わしくなってしまいます。
- 金子委員：周知方法もだが、会議の開催時間なども見直した方がよい。
- 菊地委員：会議は日中ばかりなのか。
- 加藤主幹：だいたい日中です。
- 金子委員：小中学校適正配置は夜の開催だった。
- 加藤主幹：会議の参加者が校長、保護者などでしたので、土曜日、日曜日の日中か、平日夜の時間帯で参加者が一番多い日時に設定していました。
- 金子委員：学校の先生は昼間参加できない。
- 小林課長：空家の会議だと委員が警察、消防などで昼間にせざるを得ない。構成員の都合に合わせて開催日時の設定をしなくてはいけなくなります。
- 金子委員：市民参加の評価としてはあるが、現実的に出来るかどうかという話になる。
- 小林課長：市民参加に軸を置くとぶつかる部分です。
- 斎藤委員：資料1の話から進んでいない。会議の進捗を考えていただかないと。総括の話も出てきている。この会議をどのように閉幕するのか。
- 福井委員長：審議会の評価として事務局で評価して欲しいのは資料2にある、会議開催回数と、資料の事前配布、一時保育の利用実績の3つだと思いますが、こちらについてご意見があればお願いします。
- 子育て世代が、会議に来られるのかという点で一時保育を用意していただい、そういう部分を広くアピール出来れば参加が増えていくのではないかと思うが、4名の利用の中身について説明をお願いします。
- 平向主査：4名については全て須賀小学校地域拠点施設整備検討委員会での利用とな

っています。お子様がいる世代が参加しやすいように一時保育を用意していますが、ほかの会議では利用されていないのが実態です。広報紙などで一時保育の利用については周知しています。

福井委員長：希望すれば利用はできるということか。

平向主査：そうです。一時利用の周知はしていますが、須賀小学校以外の利用がなかったということです。

福井委員長：委員募集時には書いてあるのか。

加藤主幹：委員募集時には書いていませんが、会議開催時に周知はしています。

福井委員長：委員募集時に一時保育利用が出来ると周知すれば応募が増えるのではないか。

平向主査：委員募集にあたって一時保育が利用できるというのは、広報紙で周知しています。

福井委員長：資料3のパブリックコメントの意見が少ないとことについて聞いておきたい。

金子委員：そもそもパブリックコメントが機能しているのか、意識調査の回収率が半数下回っているのと、ワークショップが中止になった理由を確認したい。

平向主査：計画ではワークショップを実施する予定でしたが、結果的にアイデア募集というかたちをとりました。結果はホームページで周知しています。

金子委員：ワークショップだったのをアイデア募集に変えた理由は。

平向主査：詳細については担当に確認しないと分かりません。

福井委員長：アイデア募集は37件で多く集まっている。パブリックコメントでは意見が集まらないのは何故か。

平向主査：計画の専門性の高さによるものだと思います。地球温暖化対策実行計画や水道ビジョンについては意見がありませんでした。

金子委員：パブリックコメントをやったのをアリバイに使われていないかどうか。

福井委員長：やりましたよ、知らないよ、というのでは困る。

小林課長：地球温暖化対策実行計画は表現などを分かりやすくするなど、積極的に意見を求めていましたが、結果はゼロでした。公表しても温暖化対策自体に興味がなかったということだと思います。

金子委員：計画の出来がよかったです意見なしと捉えることもできる。資料が分厚くなりがちなので、読み込むのが大変ということもある。

小林課長：分かりやすくするために、表や絵を増やすことにより逆にページが増えてしまうことがあります。概要版も作成して、ざっくりとした説明はしています。

福井委員長：最後の総括も含めて何か意見はございますか。

菊地委員：資料1の応募人員を満たさない委員会は広報手法や再募集を検討して欲しいという要望です。

福井委員長：委員会として、広報手法、再募集を要望としてあげさせていただいてよろしいでしょうか。

金子委員：総括で「興味、関心が持たれるよう周知方法の改善」とあるが、この委員会で検討するのか、事務局が考えるのか。

加藤主幹：事務局で検討していきます。

福井委員長：斎藤委員は何かご意見ありますか。

斎藤委員：基本的には市民参加条例に基づいて審議会等が行われていて、実績に基づいて評価されていると思います。

福井委員長：神田委員は意見ありますか。

神田委員：評価は出来ていると思います。

10 その他

事務局から、資料等の修正の有無および、町ホームページへ公表してよろしいか確認
⇒資料修正なし。掲載についても了承。

以上